京城新報

●陰暦 二月廿二日

發行兼編輯人 山下

發行所 京城西大門通 京城新報社 電話六六三番

●浪居閑話（二） 冷生

命與心乖者廢

接するに其本心にあらざる命令を發して之を實行せしめんとするも、其命令は半途に廢棄となり、實蹟を擧ぐる事能はざるを顧し來る例甚だ多かり。例へば、韓國に於て太皇帝陛下御治世の時代、屢次各種の文明的法令を發布し、訓諭し、飭戒せられたるも、一として完全に實行せられ効果を奏したるものあるなし、是皆太皇帝陛下の本意にあらずして、四圍の境遇に要せられて、已むを得ず臨時の本意ならざる如き形式によりて公布せられし迄なりて、統監實行を見る能はざりしなり、現に統監伊藤公の韓國に赴任するや、其足を東京に擧ぐるより、到る處其抱負を演べて、余の韓國に統監たるは賢きあたりの恩召により親任したるものにして、從來の如く在留日本人の專橫を許さず余の誠意は韓國本位にして祖國の利害は第二位にありと放言し、任地に到達せざる前既に在韓同胞を震慄せしめたり、加之在韓の官憲は、當時の顧問官と云はず領事官と云はず、此放言を迎合するに急にして在留民を壓する頗る苛酷を極めたり矣、統監の此地に赴任するや、聡多の屬僚を率ひ、統監旗を翻へし、威風堂々韓京の内外上下を慴服せしめて、時を移さず公の方針る所謂韓國本位なる法令は雨の如く下り在留祖國民は適歸する處を失ひ、韓國民は冷笑的に悦服したり、而して、今や即ち如何ん、當時喜悦の眉を開きたる一部は暴徒と化し、一部は不平嫌厭の集團となり、余東峡を除くの外公の意思を解するものなしと、然らば祖國在留民は、此統監政策に謳歌するかと云ふに決して然らず、斯如は實に奇現象と謂はざる可らず、

嗚呼二千五百有余年、皇統連綿萬世一系の無比の國体を有し、未だ曾て外其侮りを受けず、完全に圓滿に相同化し相融和したる其祖國を或る政策の爲めに疎外し、第二位に置かんとする如き行動が直に事實として人の承認するものなりや、否精神的に確實に如斯思想を發生せしむる事を得るものなりや、吾人は實に惑ひなき能はざるなり、吾人は信ず、統監伊藤公も此の優勝なる歴史を有して熱血に充る大和民族なりと、此大和民族の統監公が一朝にして其根元なる大和魂を忘失する如きはあり得可らざる理なり、殊に 聖上陛下の最も御信任厚き公にして韓國を主位に置くが如きは、何れの方面より如何なる觀察を爲すも、到底忖度し能はざるなり、果して然らば所謂其韓國本位なるものは、其心にあらずして唯一時の政略的發言に過ぎざるものなり、此觀察にして誤りなくば、公の所謂韓國本位を標準として發布したる法令は、是れ令心と乖く者なり、今日既に日韓兩國民心の離反を來たす素より其の所なり、讀者以て首肯する乎、非乎

●東洋拓殖會社の設立に就て（續）

然るに維新以後歐洲文明の刺戟は假令歐洲人が日本に還入つて來なくても、忽ちにして現はれて、開港以後明治の初年に於ては既に三千二三百萬の人口となり、其後絶えず其數を増して、今日に於ては既に四千七百萬人に及んだ、其差が約二千萬人、之を徳川の盛なる時代と比して見たならば我々は如何にして我今日の日本は此の如く多くの人口を養ふかを疑ふ位である、世論或は外國貿易の結果、自由に食物を國外より持つて來ることが出來るからして、此の如く人を多くの人を養ふ者があるけれども、之を統計上より見るのに米の輸入は非常に多く之を輸入した場合に於ても、五百萬以上に出づることはない、一年一人の食料を假に一石と見積るも、僅に五百萬人の人を養ふるに過ぎない、他の千五百萬人は即ち農業經濟上の改革に依つて、より多く我邦に於て人を養ふことが出來るやうになつたのである、勿論北海道に日本人を收容したのも一つの原因であるけれども、是は僅に今日も猶百二十萬人に過ぎない、臺灣は固より此統計に入れてないのであるからして、蓋し日本が少くも徳川時代よりも千四五百萬人の人を多く養ふの能力を現はして居るものと云はなければならぬ。

翻つて之を韓國の事に付て考ふるに、韓國現今の經濟的狀態は自分は恰も日本の維新前の狀態と差がないと思ふ、第一に其缺乏して居る所は國民がまだ天然の力に勝つ勢力を貯へ來らないのである、例へば土木工事に於て韓國は不完全を極めて居る、それは彼地に有名なる海潮干滿の劇しきが爲めに（加奈太附近の海岸を除いては朝鮮は海潮の干滿の劇しいことは世界で第一番である）けれど洪水の害が相一致する場所に於ては膏腴の土地も唯徒らに雜草の生へて居るのに任して置かなければならぬやうになつて居る、又灌漑の設備を行ふならば積々たる美田を作ることが出來る廣濶なる平野をも甚だ生産力の少い畑地として之を存して置かなければならぬやうな狀態になつて居る、土地には各々分業があつて、適地に適作物を耕作し、之を交換して國民の使用に供する時には非常に多くの生産力を擧ぐる場合に於ても、自然經濟的韓國の狀態は斯かる智力利用の分業を許さずして、各自其必要なるものを作らんとする結果は、不適當なる作物を耕作せざるを得ない狀態になつて居る、又土地の生産を助成すべき肥料の使用の如きも之を天然肥料以外に求むることが出來ない、從て地產力を極限に發達せしむることが難く、又東洋の文明は總て比較的暖き支那の平野に發した結果、比較的寒地に最も良き生產を爲すべき作物を所持して居らなかつた、適作物を韓國に輸入するの方法が缺けて居つた、之を要するに今日の韓國の農業は大に發達すべき餘力を有して居つて、尚は發達することが出來なくて居るのである、であるからして若し之に日本人を百萬なり或は二百萬入れて、共に韓國農業の改良に至るものとすれば、韓國に於て啻に是等の日本人を養ふのみならず、更に遙に大なる人口を養ふことが出來ると思ふ、實際韓國の土地は其大さは約日本の本州に當つて居る、土地の開拓せられて居ることも敢て甚しく我本州に劣らない、然るに韓國の人口は僅に千二百萬人の間を上下して居ると云はれて居る之に反して日本の本州は少くも三千萬以上を持つて居る、之を以て見るのに韓國文明開發の要點は、一に我農民を茲に植付るに在ると思ふ

●極東に於ける露國の新計畫

▲西伯利鐵道複線建設法案要領　西伯利鐵道複線建設法案として過般議會に提出せられたるものを見るにチエリヤビンスク、アチンスク間此工費五千三百四十萬留、後貝加爾線同五千五十萬留アチンスク、イレクーツク間同六千七百十五萬留の豫算にして之が完成期を三年乃至四年とす、尚該國遞信省の計畫に據れば、西伯利鐵道複線工事の開始と同時にペルミを經てウヤーツカ及ボログダとを聯接せしむ可きために、チユーメニ、オムスク間、五百二十二露里の線路敷設に着手すべき筈にして該線の工事は一九一一年を以て竣成すべく其工費は三千二百萬留を要すべし

▲黒龍江鐵道架橋案　露國遞信省の調査に據ればハバロフスクと其對岸に架すべき黒龍江の架橋は長さ一千二百サーヂエン（一サーヂエンは我七尺餘）にして即ち世界に於ける最長橋梁の一たるべし、而して之が技師長には多分技師オリシエフスキー氏任命せらるべし、氏は太橋梁の架設に專門者間に有名なる人にして現に中央亞細亞なるアムーダリヤ河（源をパミール高原に發す）に長一千サーヂエンの鐵橋を架したるも此人なり、尚遞信省内の技師會議は黒龍江の橋梁は如何なる式に據べきかの決定を最も重要なる問題なりと爲す由來黒龍江の水深は有名なるものなるが、ハバロフスク邊に在ては水深益々増加し居れば橋梁の土臺は餘程鞏固ならざる可らず要するに黒龍江の架橋工事は至難の工事たるべし技師の見る所に據れば該架橋は其經費五百萬留より少からず、其時日は二ケ年以上に亘るべしと觀測せらる

▲黒龍江鐵道中の新設計　黒龍江鐵道の敷設に伴ひて一新設計の企畫されつゝあるはヤクーツクとゼヤ都とを聯結する一事なり兩地點間は實に一千露里（約二百五十里）を距つ而して該企畫は經費比較的少額にして同地方開發のために利する所莫大なるべく將來に在てはヤ、アルダン鑛區諸礦の開發と一般ヤクーツク州の發展のために多大の効果を見るべし該線の敷設はヤクーツク州の產物たる山鹽、鑛物、毛皮類の輸出と歐露工作人の輸入とのために便利なる途を啓くのみならず同地方における諸河即ちアルダン、アムガ、ヰリユイ、チンプトンの流域に好植民地を開拓するに至便なるべし該企畫に關し現にイルクーツク總督の如きはヤクーツク州知事に向け本線路踏査中に一千留を支出したり

▲勘察加探險隊　有名なる露國の富豪リヤブシンスキー氏は過般二十萬留を支出して五組の勘察加探險隊を組織したり、氏の意見に據れば該探險は學術上及實際上の研究を目的とするものにして地理、動植物、風土及人種等の研究を主なる研究題目と爲さんとするに至り、該探險隊は當一九〇八年より向二ケ年を期し冬季は勘察加に於て越年の筈探險參加の人員中には人類學者ヨヘリソン、動物學者シミツド、植物學者コマロフスキー等在り

▲本年の東露植民豫定數　當一九〇八年に於ける露國植民廳の歐露民の西伯利移住豫定計畫は三十五萬人にして之が移植地積は約四百萬デシヤチナ（一デは我一町一反餘）なり此外個人に依りて計畫せらるべきものは後貝加爾州に一萬人、黒龍江州に二萬人沿海州に一萬五千人の豫定なり

●討伐隊逸話（四）

高橋侍從武官に呈出せる

賊魁申乭石

賊魁申乭石は本年一月一日我安東守備隊長蜂川少尉の爲めに一敗血に塗れ部下の多くは或は死し或は負傷し或は脱走し其勢昔日の如くならず之が恢復を圖りしこと屢々なりしも遂に其目的を達することを得ざりしが同月十日彼は遂に其巣窟なる平海郡獨谷（英陽東方約六里の山地）に歸り同賊の避難及義軍隆盛の祈禱を名とし四方に檄を飛し離散したる賊を招致し酒肴を供へ豫て有名なる剣磨山山神に祈願しつゝありたり是を探知したる安東守備隊長は其部下十三名と共に同日午前八時剣磨山麓に達し彼が部將李在植の率ゐる約八十を擊破し續て峻坂を攀ぢ同十時獨谷に到れば申乭石は其部下約百八十と牛を屠り酒宴中にありと少尉は之を夜襲し其五十を殪し潰亂に陷らしむ偵察の結果申は同日獨谷より其手兵五十を率ひ山路廣石（英陽東方約三里）に遁れしも部下來集するものなく村氏も亦彼が意に應せざりしかば其部下に向ひ歎じて曰く「我義兵を擧ぐるや人民翕然として我に贊同し義士亦蹶然我を助けたりしが然るに曩に英陽に於て土地の少年我を罵るに國賊を以てし又不時の災難により連戰連敗部將多く離散し神に祈りて恢復を圖らんとしたるに又倭賊の夜襲を受け茲に至りたるは天の命ずる所なり窮して施すに術なし我自ら決する所あり諸士各自離散せよ」と意氣頗る悽然たりしが副將某諫めて曰く「成るも成らざるも天なり然りと雖も天は未だ我を捨てたるにあらず何れの日か我義軍を起くるの機あらん一勝一敗は兵家の常にして古來其例に乏しからず希くは再擧を圖らん」と共に北方日月山（英陽北方約三里）中に去りしと

火繩銃の破裂

●賊通譯を射殺せんとし自ら死し隣兵二名を傷く

時維明治四十一年一月一日慶尚北道英陽分遣隊は賊魁申乭石以下約四百の暴徒群に襲撃せられたり分遣隊長伍長勤務上等兵熊本工は部下七名と共に勇敢に之を防止し交戰約三時間彼に多大の損害を與へたるも彼は尚屈せず我を包圍し其一部は僅々五十米突に達し戰鬪劇烈となれり

此時通譯姜信英（年齢十九歳）は恐怖措く處を知らず溫上坑中に潜伏しありしも銃聲地に響き喊聲又甚だしく殺氣滿々たるの光景を見て狼狽脱逸を企て門を出んとしたりしが賊群は既に門前に塞がりて其一名は「汝日賊の犬なり天誅知るべし」と大叫し發射すると同時に顛倒したる賊徒實に三名也き熊本上等兵之を目擊しありしが此一瞬時姜通譯も亦聲に應じて「アイゴ汝國賊天罰を知らずや」と叫びつゝ脚の自由を失し後方なる石垣に腰を衝き一時氣絶するに至れり而して通譯姜は其後平海建戰鬪に於て賊の死屍約五十狼藉しあるを見て驚愕病を得て歸鄕したりと云ふ

戰鬪後現場を檢したるに賊の所持したる銃は火繩銃にして其銃身上部は稍々現形を存し石礫を混入したる彈藥は尚銃腔に附着し銃の下部は片々に破碎せられて其附近に散在しあり之が爲め銃手は即死を遂げ尚且隣接したる二名の賊徒を負傷せしめたるものなることを知り得たり是に由て彼等携帶銃の一般を知るに足らん

小説　紋のみだれ（百）

永井　櫻圖



「かう云ふ事由ですから、面目無いけれどまあれ師匠の家へ上つて、大川さんの方も彼女が身の上も、何かと御相談仕やうと思つて居りましたけれど、何分にも思ひの外疵が深いので、醫士が二三日動かないで寢むで居れと言ひますし、それに熱が出て惡氣がするもんでから、いづれ明日でも車に乘つてなりと伺つて御相談申さうと思つて居つたのでございます誠に早、お話しにもならない不体裁千萬な事で、面目次第もありませんが、まあどうぞ私を助けると思つて、一つ宜からうやうに考へなすつて下さいませ」

と、勇五郎が語り了ると、清余も與醒顔して、

「まあ、縫ちやんが妊娠したつてね、へねゝ……驚きましたね、左う言はれて見るとなる程顔の色艶と云ひ、息遣までが尋常の軀ぢやありません、些とどうも變だと思ひましたよ、では、其の山田とか云ふ人は、縫ちやんが、始て寄席に出た頃、贔負にして能く聽に來たあの、顔のノッペリした俳家だとか云ふ書生なんでせうね……彼の頃から縫ちやんの樣子がどうも怪しいと思つて居ましたよ。だが、其の山田と言ふ人は、其の當座本の少しの間來たばかりで、其からと云ふものは影も姿も見せなんだが、それでも縫ちやんは矢張會引爲てたと見ゑますね若いものつてものは油斷がなりませんからね、あゝして毎日一緒になりながら、縫ちやんが姙娠して居るなんどは、今の今まで私始め誰だつて知らないんですもの……これはかりは眞箇驚きましたよへね……もう五月なんですからね、へね……」

と、如何にも驚いた樣子である。

「いや、私も妊娠と聽いた時は、驚くまい事か、眞箇驚きました」

「で、縫ちやんは現今何處にいるんです」

「さあ、それが更り判りませんぢや、何しろ跣足で家を飛び出したきり、今に歸つて來ないですから……私の推量では必然山田の家にいるんだらうと思ひます」

「山田の家は何處でせう」

「其が知れないで困つてをります、何でも以前は内幸町邊にいるやうに聞いてをりましたが其後行衛が知れないなんて言つてをりましたから、當今は何處にをります事やら、私なんぞ、山田の事なんか疾くの昔に忘つて了つて、今日山田と斯々だと言はれて、漸く思出した位なもんですからね」

「何しろ、縫ちやんの居所が知れないぢや

と、當惑相に、煙袋を取出しつゝ考へ込む

「何有、逃出しきりになるもんぢやありませんから居所は明日にもなりやあ乾度知れやうと思ひますが、大川さんの方は奈何したもんでせうね、私も實は、旦那なり、お師匠なりへ申譯が無いので、其でまあ手前な事も爲たような次第で、眞箇どうも難て了ひました」

と、同じやうに當惑相な顔する。

「どうすると言つてた御前さん、致方がないぢやありませんか、大川の旦那がいくらてるからつて、他の見を孕むで五月にもるものを奈何するもんですか、頭を地にけて謝罪るより外致方無いぢやありませか、散々骨を折つた、揚句の果がこれなだもの、もう〳〵他の事なんかに心配すのは眞平だ」

と、厭味を云つて煙管を輪に吹かす。

京城新報

東洋拓殖會社

東洋拓殖會社法案は、去る十八日帝國議會に提出され、十九日本議に於て特別委員附托となる、議會の會期切迫せる折柄なれば、緊急決議の下に兩院を無事に通過せらるゝや明矣、

世間若し拓殖案に異論ありとすれば、八年間每年三拾萬圓の補給と、現時の經濟狀態は其時機にあらずとの二論に過ぎざるを思ふ、一は斯る優越なる保護會社に壓迫せられては現在の居留邦人は之に對抗し得ずして仆るゝもの多からむと、一は我が海外の諸事業成功少く南滿鐵道の成行面白からざる矢先如何あらむと、二者ともに其氣遣ふ所尤もなれども、余輩をして云はしむれば之れ韓國の事情に通せざるより起る杞憂也、

我殖民にして八道に普く發展するに於ては韓半島の眞の經營は殖民の發展にある也、韓國問題は茲に解決を告ぐる也、拓殖會社設置の急且必要なる所以は茲に存する也、

要するに最も注意を拂ふべきは總裁の撰任なり、總裁にして其人を得れば二者の杞憂の如きも障碍なく圓滿に行はれむ、總ての事は主腦たる人物の如何によりて成敗の岐るゝは固より當然の事なりと雖も、余輩は特に拓殖會社の總裁に於て異常に適材を得んことを望むや切也、南滿鐵道に顧るも、經營を外にし內輪の權力爭ひに腐心するが如き愚を避けざる可らず、余輩は統監にチヤンバレンの如きを得、總裁にセシル、ローヅの如き人物を得んことを望む、斯くして半島經營は完ふし得らるべき也、

紐育電報

▲回航艦隊の訪日

米國政府は日本政府より回航艦隊の日本に立寄らん事を乞ふ旨の招待をなし來れるに對し此れを承諾するに決定せり(廿一日發)

▲言辭頗る鄭重

回航艦隊の日本に寄航せん事を乞へる日本政府の招待文公表されたるが其の言辭頗る鄭重にして充分に日本の厚意を表彰せるを以て米國人に良好なる感覺を與へたり

▲外交的辭令

米國下院にて一議員の說明する所によれば比律賓に於ける海防費の節減は日本政府の感情を害せん事を氣遣ひたるによると云へり

▲米艦の橫濱滯泊

回航艦隊の橫濱滯在は一週間と決定せり(以上二十二日發)

北京電報

▲清商の對日ボイコット

廣東の商業會議所は檄を上海商人に傳へ辰丸事件を理由とし日本に對するボイコットを勸誘し不穩の狀態あるを以て林公使は清國外部に向ひ注意せり(廿一日發)

東京電報

▲興業銀行と外資

政府は今日左の議案を衆議院に提出せり

韓國に於ける公益事業のため日本興業銀行に於て韓國政府への貸付をなすがため政府の認可を受け外國に於て債券を發行する場合は二千萬圓を限り其の債券の元利支拂を政府が保證する事

▲兩院の憲法紀念式

貴衆兩院の憲法紀念式は伊藤公外來賓二十五名議員四百五十名にして兩院議長の式辭に次ぎ伊藤公の謝辭ありて頗る盛會なりき

▲兩黨の拓殖案賛成

政友會及び進歩黨の代議士會は東洋拓殖會社法案を賛成する事に決定せり(以上二十二日發)

▲東洋拓殖總裁

東洋拓殖會社總裁は陸軍中將宇佐川一正氏に內定せり(二十三日發)

▲渡韓憲兵

韓國に派遣さる可き憲兵千二百名は四月五日出發渡韓する筈にて其の配備は間島に五百名を置き七百名を仁川、元山、清津其の他各地方へ置かるゝ由(廿一日發)

▲拓殖會社案

東洋拓殖會社法案は本月廿四日の衆議院に上り可決の上直ちに貴族院に送付さるる筈にて議會開期最終日迄に可決確定すべし(同上)

雜報

●東洋拓殖會社法案

政府は愈十八日東洋拓殖株式會社法案を衆議院に提出せり其要領左の如し

第一章 總則

第一條 東洋拓殖株式會社は韓國に於て拓殖事業を營むことを目的とする株式會社にして其本店を東京に置く

第二條 東洋拓殖株式會社の資本を一千萬圓とす、但し政府の認可を受け之を增加することを得

第三條 東洋拓殖株式會社の株式は總て記名式とし日韓兩國人に限り之を所有することを得

第四條 東洋拓殖株式會社の資本增加は株金全額の拂込あるを要せず

第五條 東洋拓殖株式會社の存立時期は創立登記の日より百年とす、但政府の認可を受け之を延長することを得

第六條 東洋拓殖株式會社は政府の認可を受け支店又は出張所を東京其他の地方に置く

第二章 役員

第七條 東洋拓殖株式會社に總裁一人、副總裁二人、理事四人以上、監事三人以上を置く

第八條 總裁は東洋拓殖株式會社を代表し其業務を總理し副總裁は總裁事故ある時其職務を代理し總裁缺員の時其職務を行ふ、副總裁及理事は總裁を補助し東洋拓殖株式會社の業務を分掌す、監事は東洋拓殖株式會社の業務を監査す

第九條 總裁は日本人とし政府之を命す、副總裁は一人を日本人とし一人を韓國人とす、理事、監事は其員數の少くとも三分二を日本人とし其他を韓人とす、副總裁及び理事中日本人は政府之を命じ韓國人は韓國政府之を命す、但し理事の任命については五十株以上を所有する株主中より各二倍の候補者を選擧せしむ、監事は株主總會にれいて三十株以上を所有する株主中より之を選擧す、總裁、副總裁、理事の任期は五年、監事は二年とす

第十條 總裁、副總裁及び理事は他の職務又は商業に從事することを得ず、但し政府の許可を受けたるときは此限にあらず

第三章 營業

第十一條 東洋拓殖株式會社は左の業務を營むものとす

一、農業
二、拓殖のため必要なる土地の賣買及び貸借
三、拓殖のため必要なる土地の經營及び管理
四、拓殖のため必要なる建築物の築造賣買及貸借
五、日韓移住民の募集および分配
六、移住民及韓國農業者に對し種苗肥料その他產業用原料の供給
七、移住民および韓國農業者に對し建築材料及產業用の器具器械船車及獸畜の供給
八、移住民及韓國農業者の生產又は獲得したる物品及日韓移住民に必要なる物品の買賣運送及貯藏
九、拓殖上必要なる資金の供給

●鶴原長官の去就

(萬朝轉載)

統監府總務長官鶴原定吉氏は來る二十八九日頃一先づ韓國に歸任する筈なるが氏自身は今日直ちに辭職するが如き事情も必要もあらずと明白に否認しながら忽ち「然れども」の一轉語を下し家事上の都合永く韓國に留まるを許さずと暗に辭職の意あるをホノメカせるより考ふれば統監府內に氏の姿を見ざるに至るも恐らく遠き未來にあらざるべしと察せらる野心滿々たる氏の窮屈なる官服を脱して何れの方面に發展の地を發見するやは知るべからざるが或は藤田組に入るべしとも傳へらる、

●拓殖會社案委員會

衆議院の東洋拓殖會社法案特別委員會は二十日午前十時開會、改野耕三氏を委員長に推し先づ水町政府委員は議案の大体について左の如く說明せり

日露戰爭前韓國と顧問契約を結びし當時より東印度會社の如きものを設立して日韓兩國の關係を密接せしめんとの考案ありしも其後內外の事情に制せられ實行の機を得ざりき然るに其後東洋協會の建議あり政府從來の考案と略一致せるを以て漸次講究を重ねたる末國庫の歲計上些かの無理なる點なきを得ざるも日韓兩國の利益のため特別の施設を斷行したる次第なりと云々

次に加藤政之助氏は株金拂込額、會社設立の時期、補給利息、設立委員の任命等につき質問し水町政府委員は拂込額は四分の一にして設立後六箇年を經過せば補助を要せざる見込なるも何分大會社の事なれば政府に於ても大丈夫を取り補助年限を增加して八年としたるなり而して本案通過せば出來得るだけ早く設立に着手すべく設立委員も既に內輪に見込はつき居れりと答ふ次に森肇氏は政府は何を以て會期切迫の今日突然斯の如き重大議案を提出したるかと詰り岡野政府委員との間に問答あり次に吉植庄一郎氏は未開地に對しては半官半民の大會社を設立し全般の事業を一手に引受くるの必要あらんも韓國の如きは既に分業發達し且統監府あるにも拘らず斯の如き大會社を起して大特典を附與するは果して適法なりやとて營業の種目を多くしたる理由如何なる手續により土地賣買をなし得るか又東洋拓殖と命名したるは韓國以外の招殖にも手を展ばす考なるかと質問し岡野政府委員は會社營業の主たる目的は第十一條の農業開發及農產物の分配にありて第十二條の營業種目は畢竟附帶事業に過ぎず又條約に於ては土地の所有權を外國人に許さゞることとなり居れども韓國現在の狀況を見れば事實に於て土地所有權を外國人に許し居るのみならず對韓政策よりいふも法律のために土地所有權を得ざるは兩國の開發上不可なりとせば之を得るの道を開くこと必要なり又社名に東洋の二字を附したるは徒に名稱の大なるを目的としたるにあらず他國の名を取つて法律の定むる會社に冠するは穩當ならずと認めたるが故なり從て東洋全体の招殖を意味せるにあらずと答ふそれより引續き大同小異の質問頻出したるが小川平吉氏の發議により之にて大体の質問を了り次回は來廿三日開會することとして散會せり

●拓殖會社の役員

東洋拓殖株式會社法案の衆議院に提出されし緊急動議を以て十九日の議事日程に上りて特別委員附托となるや各派の議員中之が委員に指名せらるゝことを希望するもの甚だ多く政友會の如きは其選任に就て頗る競爭の劇烈なるものあり彼等が斯く委員の上任に腐心する所以のものは他日該會社の役員たらんとする運動驅引の一楷梯たる可しと云ふ而して該會社の幹部は何人が之に當るやといふに平田東助氏總裁に小松原英太郎氏副總裁たるとは既に確定せる由なるも亦一說には小松原氏總裁として副總裁は全く未定なりとの說を爲すものもあり

●拓殖會社々債保障

政府は衆議院に東洋拓殖會社に關する左の豫算外負擔となるべき契約をなすを要するの件(追第二號)を提出したり

東洋拓植會社にれいて發行する社債二千萬圓を限り政府にれいて其元利支拂の保障をなすことを得

●崎釜電線買收

韓國の通信事業が我が國の經營に成れる今日內地との連絡電線も遞信省に於て經營するの必要あり昨年來大北電信會社の長崎釜山間海底電信讓與交涉中なりしが會社側に於ても別に異存なく交涉は略結了を告げ目下之に關係する案件協議中なりと

●軌道條令の制定

韓國政府は軌道條令を發布する筈にて目下內部に於て調査起草中なりと云ふ

●韓國高等女學校

韓國高等女學校に關し當局者の語る處によれば韓國に於ては官公立女學校の設立は今回を以て嚆矢とする事なれば先づ勅令を以て高等女學校令を學部令を以て同令施行規則を發布し右の規定に基き官立漢城高等女學校學則を制定する順序にして何れも近々發布さるゝ筈なるが本校には本科豫科技藝專修科の三科を設け別に附屬幼稚園を置く本科は修業年限を三年とし修身、國語、漢文、日語、地理、歷史、算術、理科、圖畫、家事、手藝、音樂、体操の諸學科を必修科とし手藝中裁縫を除く外刺繡、編組、絲、袋物、造花及び割烹は生徒の希望の科を選みて其の一科或は數科を修業せしめ(裁縫は必修科とす)別に隨意科として教育大意及び日語以外の外國語を授け豫科は修身、國語、日語、算術、理科、圖畫、手藝、音樂、体操を教授し手藝中の諸科は本科と同じく隨意撰擇を許し二年を以て修業する事とし專修科は修身、國語、算術を必修科目とし裁縫、刺繡、編物、組糸、袋物、造花、及び割烹の諸科中の一科又は數科を專修せしめ日語、家事の兩科を隨意科とし修業年限を二箇年とす入學生の年齡は豫科は十歲以上本科は十二歲以上專修科は十五歲以上とするも當分は入學希望者の便宜を圖り此の制限は勵行せざる方針にして本年は以上の三科中豫科及び本科を各一學級募集する豫定なり附屬幼稚園は四歲以上の男女兒を收容し遊戲唱歌、談話、手技の諸科を置き一日五時間の保育をなし本年は約四十名を入園せしむる豫定なり職員は總て女子を使用する筈にて目下人選中にして日本人は女子高等師範學校を卒業して今京都高等女學校に在勤中の某女史及び技藝教師二名を交涉中韓人は永く日本に留學し目下白耳義に在る某女史及び日本語を解する者一名を之れ亦交涉中なり又幼稚園保姆は韓人を採用し日本人教師監督の下に保育を掌らしむる筈にて本校の開始期は四月一日の豫定なりしも未だ法令發布せられず職員の人選も終らざれば四月下旬或は五月上旬頃ならん而して本校は今後韓國の各地に設立せらる可き高等女學校の模範たるべきものなれば其の學則の制定は當局者の最も意を用ひたる處にして一般の方針として女子教育の初期に屬する韓國の現狀に照し學科に重きを置かず主として技藝に力を用ひしむる事となせり云々

●暴徒の銃器購入

黃海道西部方面の暴徒は銃器彈藥の缺乏に苦しみ竊かに海州に出で人を介して之が購入をなさんとするの風聞あり同地警察署に於ては專ら搜查に努めつゝありしに三月十七日午後八時頃同地東門內居留日本人三原裕市方に來れる韓人は同人所有の村田銃及び其の附屬品を高價に買受けん事を申込みたりとの事を聞知し右の日本人に命じて該韓人に銃器を賣却せしめ之を逮捕したるに府內小十里居客主に止宿中の韓人に依囑せられて購求したりとの自白に依り其の客主を搜索して金承基なる者を逮捕し取調ぶるに載寧方面に在る暴徒首魁李進士の配下にして同人の命を受け銃器供給の目的を以て海州に來り他人に依賴し銃器の蒐集に從事せる事を自白したるを以て尙嚴重に取調べ中なりと云ふ

●又々暴徒洪陵に迫る

過日來東大門外に暴徒來り東部警察署の巡查一名殷部に負傷せしが一昨朝警視村上則貞氏は巡查拾數名を引率して之れが討伐に向へり

●電線を切斷す

去る二十日のことなりし或る本邦人が龍山より舟に乘じ漢江を溯りしに龍山より漢江坊に至る間に架設しある電線中江岸にある分數條を何者にか切斷せられありしを見たりと多分暴徒の所爲ならんと

●忠清南道の海賊

忠清南道唐津郡沔川郡の沿岸には往々海賊出沒し本月九日には義兵と稱する者六七十名各銃劍を携帶して唐津郡に來り韓人一名を捕縛し衆人を集めて曰く此の漢日本人の密偵となり吾等の行動を妨害せんとす故に之を砲殺すとて即時銃殺し錦岩浦より乘船逃走したりとの報ありしを以て洪州警察署巡查十五名は右の賊徒搜索のため同郡に向ひ小蘭芝島に至りし時賊徒は日本形船一隻及韓船一隻を浦口に繋留して上陸し居り我一行の來島を知るや直ちに銃火を送れり我亦直ちに應戰したるも位置不利にして巡查一名は賊彈のため前頭部に銃創を受くるに至りしも強行上陸し後方の高地に據りて戰鬪九時間の後賊は死屍四十一を遺棄して潰走せり鹵獲品船二隻銃器其他雜品多數あり

●仁川民團議會

豫報の如く仁川民團議會は去る二十日第二十三回民會を開會せるが出席議員十名にして加來榮太郎氏假議長に擧げられ第四十七並に第四十八號議案(豫算更正並に起債)及び第四十九號議案(就業規則制定の件)に就き附議したるに滿場異議なく原案を可決し直ちに協議會に移り開港二十五年祭に就ては別項の如く決議し神輿渡御式は末社としてならば許容すべしと云ふ說多數を占め第二公園問題に關しては愈々理事者に於て設計することを承諾し且つ如何なる程度に於て爲すべきかに就き委員をして調査せしむることを可決せり

●張志淵氏

元皇城新聞主筆張志淵氏は過日露領浦鹽へ赴きたる由なるが右は露國に歸化したる同地韓人等の新たに起したる排日機關新聞の主筆となる爲なりと云ふ

●近事片々

▲拓殖 會社法案に對し伊公の反對せしは日本人の利益を主としたる點に存すと云ふ
▲創立 趣旨の主腦日本移民獎勵の爲とあるを削除し其他總て韓本位伊藤式に修正す
▲要之 日本人の利益を計る權に見へては韓人の感情を害すと云ふにあり是則伊藤式
▲伊公 の政策は表裏轉倒斯る事よりも多數の日人官吏任命の方が遙か感情を害せる也
▲韓人 の感情を害するを恐るならば日人小官吏の任命斷然可廢之れ有害無益の骨頂
▲主腦 に有爲の人物一人宛を入るれば我山斯せば感情を害せず好成績を得るや必矣
▲肝要 の點は閑却し下らぬ事に惡まき爭ふ伊公由來斯僻あり此上の失敗は御免蒙る
▲辰丸 事件落着し次で來りしは日本商品に對するボイコット對淸外交の刷新急務也
▲元來 對淸外交軟弱宜しからざるより辰丸事件も大問題となす本元霞ヶ關の改革急務
▲每日 申報外報に米國艦隊回航に日本が偵探船を出せりとある日本は斯る嘛はせぬ
▲此外 報はベッセル申報獨得のものならむ日本は米國艦隊回航に何等重きを措かず
▲米國 全勞働同盟は八時間勞働と亞人排斥を承知させ武雷安を大統領候補に推選す
▲武雷 安氏夫れ諾せりと武氏功名に急なる或は然らむ勞働同盟の勢力は侮る可らず
▲民主 党の振はざるや久し再三失敗し屈せず守ふ武氏の精力過絕或は月桂冠を得む
▲露國 敗軍の將黑派野夬扶脫克等決鬪す卑怯者共自己の非を掩て喧嘩とは何事ぞや
▲黑鳩 とウ伯母邊殿捨夫と膝山大公今亦此奴共內輪喧嘩のみして內幕曝露に骨折る
▲帝王 と國民亦常に反目す虛無黨無政府黨の本場だけある統一なき國家は困た者也
▲西園 寺內閣の補と覺悟し松田を寵相專任法相は司法官より長谷場選相たらんと
▲人間 は辛抱が肝腎也長谷純で噂だけでも大臣の椅子に有付世は決てはかなむ勿れ
▲陶庵 侯團十郎の娘に勸て女優たらしめ堀越家に波瀾起る勢殿痛く立腹首相を恨む
▲娘も 娘だ團洲の遺言に背き黜殺とした良人の有るにハナ矢張り河原者の稀かなア
▲一時 滿都の胴揩運を噂はしめたる綾之助十一年目で美音會に先代萩御殿場を唸る
▲自慢 でありませんが今の眞打連には敗けません積りと意氣軒昂當年の意氣衰へず
▲住友 本店總理鈴木氏瑞西產のセントボアナード種の犬牡牝を大枚の金にて購ふと
▲此種 犬族は尤も利口にして夜番は無論使び子守迄する雪中凍人を救ふは此犬族也
▲牡が 体量十七貫牝十五貫食物は一日二疋で穀類一舛五合肉が二斤其他牛乳少許也

●仁川開港紀念祭

[illegible]仁川開港紀念會に關する件は豫ね[illegible]計畫調査中なりしが去る二十日の民會に[illegible]の結果左の方法を以て實行[illegible]

一 仁川開港二十五年紀念會は仁川居留民全部の有志を以て組織す
二 本會の期間は本年五月五日より十一日
三 本會期間前後二日を通し十一日間韓國全線滊車五割引及各滊船五割引を請求する事
四 祝賀會は五月十日を以て執行する事
五 祝賀會には開港に因める顯官及民間の志士韓國各地の日韓並に各國官民代表者[illegible]
[illegible]團体に於て本會に關係なき祝賀の傾ある向は成るべく本會期中に之を開催し本會の賑を添ゆる樣勸誘すること
[illegible]
九 本會に會長一名副會長二名實行委員七十名以內を置き一切の會務を處理す委員は會長の指名に依る
十 庶務係(寄附金募集及廣告其他庶務一切)若干名 經理係(金錢の收支物品の購買一切及[illegible])
十一 本會期間[illegible]於て大市を開催することを交涉する事
十二 本會期間中軍艦の派遣を其筋に請[illegible]

●仁川開港紀念祭

……紀念會に關する件目下……

……計畫調査中なりしが去る二十日の民會に於て協議の結果……左の方針を以て實行する事となれり

一 仁川開港二十五年紀念會は仁川居留民團全部に於て主催を以て組織す

二 本會の期間は本年五月五日より十一日

三 本會期間前後二日を通し十一日間韓國全線汽車五割引及各汽船五割引を請求する事

四 祝賀會は五月十日を以て執行する事

五 祝賀會には開港に因める顯官及民間の志士並に韓國各地の日韓並に各國官民代表者の……

六 本會は市內各營業者に見て大割引を爲し且聯合大福引其他各種の方法を以て一般の賑を計る樣勸誘すること個人若くは

七 團体に於て本會に關係ある設數の催ある向は成るべく本會期中に之を開催し本會の賑を添ゆる樣勸誘すること

八 ……得る收入を以て之に充つ 大賣出の施行の方法順序並に祝賀會の豫算及實行方法は委員に一任す

九 本會に會長一名副會長三名實行委員七十名以內を置き一切の會務を總理す委員は會長の指名に依る

十 會長の推薦に依る 委員の分擔左の如し

商事係(大賣出に係る一切の事項)若干名

庶務係(寄附金募集及廣告其他庶務一切)若干名

經理係(金錢の收支物品の購買一切及……)

祝賀會係(祝賀會準備及結末一切の事)若干名

各係に委員長を置き其分擔事務を統轄す

十一 本會期間中……に於て大市を開……することを交渉する事

十二 本會期間中韓國艦隊の派遣を其筋に……

●井上書記官東上　井上宮內府書記官は禮式官と共に……南大門發東上す



中實談 花の根ざし(五)　栗嶽庵主人

次郎もどちらかといへば、早く目的のことにかゝるはうが望である、爺もその事業がいゝと思ふから資本を出して共同でやらうと云ふのだ、非常なる厚意には違いないが、強ち助けらるゝといふのみではない、これは爺の說に從つた方が双方のためである、して亦たこの優しき老夫婦と同居することは、自分に取りても望む所だが、日本人の居らぬ所故静子にとりて此上もない慰である、斯う考へると別に之を否む餘地もない所謂願つたり叶たりといふ處である、唯快諾する外はない、

『斯ならぬ自分を斯まで御信用くだすつての御斷、異存はござりませぬ、何分ともに宜しく御願ひ致しまする、静さむ貴女も嬉れしいでせう、』

静子は微笑して、

『妾、こんな嬉しいことはないわ、妾始めてこの家に伺て御夫婦にお目にかゝつたときから、何だか懐しくて、それからだんく日の經つに從て親のように思はれ、今では妾が甘へるようになつたわ、近ひ處でもお別申すのは何より悲しく思ひ、できることならば何とかして御一所にと、心の中で思て居りました所へ、今の御咄しで夢かと計り思ひましたわ、』

といそくとして喜びが顏に顯れ、其無邪氣い姿は老夫婦の愛を更に增さしめるのである、爺も喜んで、

『花崎さむ、承知して呉れて寔に難有い、私等も年は老るし、何どか末のことをと思て居つた所に、かねて花崎さむの事業のことを聞きて、成程之は將來見込のあることだと考へて居りました、今御話があつたに付て御相談したやうな次第です、妻君までが喜でくだすつて、私も何だか今日は氣が浮々して、年も若くなつたような心持がしますじや、』

と云て喜べば、婆さむも喜ぶ、世間は利害にのみ敏く、財貨のことでは親子相爭い、夫婦相せめぐ、然るにこの家は別天地である、巫者の所謂極樂をこの世に來たすとは則ちこれである、

次郎は更に老夫婦に向ひて、

『また可笑なことを申上る樣ですが、僕と静さむとは、唯許嫁といふのみでまだ婚禮の式を擧げて居ないのです、僕が何どかなつたら歸朝して、婚禮をした上で連れて來る積りであつたのです、處がそれをまたないで突然にやつてきたのです、何だか式を擧げなきア極りがつかない、どうか御夫婦が謀酌人になつて頂て式のしるしをしたいと思ひます、』

といへば爺は笑いつゝ、

『はゝア、それで貴君達は別に寢なさるのだなア、どうも變だと思つた、それは早速する方がいゝ、善は急げだ、今夜式の眞似方をする樣になア婆さん、』

●片淵氏の遠逝　元統監府囑托片淵琢氏は宿痾糖尿病再發して去月下旬より大韓醫院に入院治療中なりしが去る廿一日夜俄に病革り遂に午後十一時四十五分逝去せられたり氏は佐賀縣出身にして漢學に精しく故品川子爵兒玉大將等に用ひられ半世を國事に捧げて東奔西走し居りしが去る二十八年渡韓し八道の褓負商を糾合し東亞開進教育會を創立し兩國のために貢獻する所少なからず後統監府より韓國舊慣調査を囑托せられしも四十年一月病のため辭任し爾後專心著述に從事中此訃音に接せしは轉た悼むべし

●瀨川氏義捐金募集延期　呼子警視等の發起にて募集中なる巡査瀨川孫平氏に對する義捐金募集は本月二十五日までにて締切る筈なりしも各地方よりの同情者頗る多く之を空ふせざる爲め來る四月十五日まで締切を延期したり世の同情ある人々は右期日まで警視總監官房呼子警視宛に申込むべし因みに二十一日までの義捐金は二百十九圓十五錢五厘にして其人々は左の如し

一金二百圓也	統監府高等官一同
一金十圓也	峰岸繁太郎
一金三圓也	古城穗之助
一金一圓也	小佐內佐太郎
一金一圓也	糸山德二郎
金十五錢	龍山生
金三圓也	波多野彌五郎
金一圓也	江口齊

●購買係の不正と奸商　各官廳に於ける購買係が御用商人などゝ結託し不正を働くことは屢々聞知する所なるが今又下の如き投書に接す果して事實なるや否やは知らざれど茲に揭げて讀者の判斷に任すとせり此頃の某新聞に各官廳購買係の不正行爲の記事ありたるが實際官吏側には如何はしき者あることとは屢々耳にする所なるが一方彼の御用商人なるものも又不正の聚ありて種々の奸策を弄することと甚しく爲めに眞面目なる御用商人の如きは常に彼等奸商の爲め始終苦痛を受けつゝある由今爰に不正商人の二三を指摘すれば旭町の河瀨某、佐藤某、若月某の如きは其の最たるものにして何等の資格もなく信用もなきにも拘らず小役人共と結託し又は他の眞面目なる同業者を中傷し競爭入札の場合には市價以下出來得べからざる方外の安價に入札し粗製品を納入し小役人との結果強て之れが檢査を通過せしむるに至る又適ま相當の物品を納入せし場合には一方自己の買入先に對し種々の口實を設けて其代價の不拂を爲す等惡策至らざる所なしと要するに此等奸徒の橫行するは當該官廳の購買係が商人の資格を調査せずして如何なる者と雖も玉石混淆用聞に來るに從て入札を命ずる結果にして競爭入札購買の原則を誤用せるに歸するものといふべし當局の上長たるもの須らく熟考して部下の不正吏と共に斯る奸商輩を一掃すべきなり

●義和宮惡毒に罹せらる　風流皇子又は艶皇子とて日本は申すに及ばず亞米利加に至るまで浮名を立てられ艶聞の絕へぬ義和宮には一たび刺々しき眼色の幾つた薔薇の花に接吻されたる以來其香の鼻に付て一時も忘れる隙なく先年東京より久しぶり歸國されたる時にも此薔薇の香は御後を慕ひ參らせアストルホテルに宿りて每夜寺洞の宮邸に伺候し居りしことは當時の紙上に記せしが其後又々日本に渡らせれし時も御後を慕ひて東京に行き今回御歸韓の途次京都の御旅館たる都ホテルに薔薇の花は咲き出で都の人々に不審を打たせたる歸國の時も此の花は再び漢城に咲て森嘆きヨボ連の目を欹てしめ居れり義和宮には斯く艶福にあらせらるゝにも拘らず此頃に至り昌德宮に御在します兄皇帝の御附官妓香蘭とか云ふものを見染めさせられて兄皇帝には內證にて御邸に引入れられて昌德宮に歸されざるにぞ兄君には不審かしき事に思召され段々尋ねられし右の次第と知れしかば其儘に棄て置かれたるに元來此香蘭と云ふ官妓は浮氣女と見へて身に惡性の黴毒を患ひ居ることゝて何條堪るべき義和宮には忽ち其毒に感染せられたるにぞ御附の者等は大に驚き兎角御意見申上るも一向に御用ゐなく相變らず寵愛せらるゝに依り御附の者等も致し方なく侍醫たる洪性友は御床に入らるゝに先ちて香蘭の患部を檢査することゝなれりと

●惡意から起つた喧嘩　山口縣厚狹郡吉田村の者にて櫻井町に酒行商を營める水田孫六(四十)といへるは大和町一丁目の山口洗濯屋に居れる大西粂(五十)とは豫ねて懇意の間柄のことゝて大西の請ひにより去る二月二十四日に金四圓を貸し與へたるに去る十日は其の期限なるも返却せざるより數回督促に及び大西は去る二十日其の斷りの爲め水田方に至りしに折しも孫六は不在にて其の內緣の妻なる岡崎ソノといへるが留主居せるより女さ侮り無斷にて有合ふ錫を引き裂き冷酒をあふりて去りたるを孫六が歸り來つて斯くと聞き心中に怒りを含んで居れる內偶然櫻井料理屋にて大西に出會し其の不都合を責めたりしに大西は却つてこれに抵抗し孫六の胸倉を執つて押しつけ尚ほ火箸を以て孫六の左眼を傷けたるより孫六は恐れながらと警察署へ訴へ出でたり

●荷馬車に人力車を繫ぐ　本町二丁目の伊藤組の車夫西村彌次郎(三十)同時吉才藏(二十)の兩名は去る二十二日の朝草梁行の客を搭せて南大門驛に至り其の歸りに車を曳くよりも車に乘る方が安樂なるべしと大に發明したつもりで折節歸り居るヨボの荷馬車の後方に一臺の人力車の梶棒をくゝりつけ其の人力車の心棒にまた一臺の人力車の梶棒を括りつけ兩人とも各これに打ち跨つて南大門通二丁目まで來かゝると巡査がこれを認めてコリャくの一聲と共に引き卸ろしざんざく叱りつけたるより兩人は又も車を曳きて逃げるが如く走り去れり

●鐵道案內者の亂暴　去る二十日の午後三時頃鐵道管理局案內者の帽を被りたる男がヨボの人力車に跨がりて本町三丁目の車馬通行禁止の場所に來りヨボ車夫がこれより先へは行かれぬといふを聽き入れず無理に進めといひ車夫がこれに應ぜざると車上に於て亂暴を爲すを巡回の查公が認め說諭せしに却つて查公に喰つてかゝり說諭を肯んせざるより警察署へ引き立てられ夫れ迄の勇氣どこへやら消へ失せ悄々として查公に從ひ行きしが定めて大眼玉を戴きしなるべし

●朋輩の衣類を典物とす　東四軒町の荒谷カツといへるは曾て南山町の翔翠樓に居りて昨年十二月歸國して一月に再び同樓に歸り來り程經て鑑札を改め見れば紋上布の單衣一枚絣本場の單衣一枚紋博多帶一筋紹織の帶一筋紛失し居るより種々取調の末同樓に藝妓たりし大阪市南區瓦屋町生れの川谷ミキといへるが窃かに取出して典物となしたること發見せしもミキは既に同樓を出でゝ他家に居れるよりカツは其家に至り嚴重なる談判に及びし處ミキは只管詫び入りて兩三日中に現品を返却すべきことを誓ひ其後幾度か期日を變更するも更に返却せざるよりカツは昨日其筋へ告訴したり

●山羊の公賣　去る五日大和町二丁目に於て牡山羊一頭路上に彷徨し居れるを巡査が拾ひて南部警察署へ連れ歸りたるが其後持主判明せざるにより今二十四日午後一時公賣に附せらるゝ筈

●無錢にて青樓に入る　此の種の者は以下の蠻には敢て珍らしからぬことなるが爰にまた愛媛縣新居郡新居村の白石菊之助といへるは此の京城に來り流浪し居りて去る二十日の夕刻南大門通りの清國人德源樓に至り飲んで喰ふて扨勘定といふ一段になつて懷中無一物と白狀せしも德源樓にては承知せず巡回の查公に引渡し菊之助は南部警察署へ引き立てられて其の不心得を說諭せられ德源樓へは兩三日內に支拂ふことを誓約して漸く事濟みとなれり

●理想に合はねば行かぬ　高知市弁形町の士族政則の長女金田ユク(十九)といへるは何時の頃にか此の京城に流れ來つて明治町一丁目の雇人口入業三共舍の世話にて本町八丁目の東雲亭へ前借金六十五圓にて仲居奉公に入り其後蘇生病院に看護婦として入り込みしも是また辭し去りて今は三共舍に滯在し居れるが項日同舍主が百圓の前借にて開明亭へ仲居に世話せんといへるをユクは理想に副はざるが故に行かずといひ舍主が頻りに勸告するよりユクはこれを蒼蠅しとて南部警察署に出頭し同舍主へ對して斯る勸告を爲さざるやう說諭し與れよと願出でたるが何れ底に底ある魂丹のあることなるべし

●仁川の天然痘　仁川港花町一丁目十八番地大工職永井虎吉(三十)は京城本町町田支店に被雇中本月十七日突然發熱し就業に堪へざりしを以て翌十八日歸仁し自宅にて床に就きたるが爾來病勢昂進するのみにて普通の熱病とは異なる如くなるを以て醫師の診斷を受けし處眞正なる天然痘なる事判りたれば其筋にては直ちに避病院に送り家族に對しては種痘を施行したり

●ボヤ三ツ　去る二十二日午後三時頃壽町二丁目の馬車運送業中尾壽太郎方より出火せしが早くも消し止めたり原因は壽町二丁目田中嗣信方雇人內藤某の長男宇一郎(十二)といふ腕白小僧が爆竹を弄び其の火が藁屋根に燃え移りたるなりと△廿一日夜九時頃光熙門內仁峴板井潤六十九統二十三戶李俊濟方より出火せしが此れも早く消し止め△二十二日正午頃龍山の某韓人宅より出火せしが京城消防組驅けつけ消し止めたり

●よう伊藤の色男　今日此頃の陽氣に心の駒も狂ひ出し南山や新町裏の山登りなど日々に多くなりしが二十一、二十二の兩日は休みのことゝて南山などは仲々の賑ひにて別して新町の稻荷詣に托けて昨夜の娼敵の面を見んと出懸けしものも頗る多かりし中に四人連れの書生体のものが今しも稻荷堂の此方に差懸らんとするときは大桝屋の花子と云ふ仇女が稻荷に祈願を凝らしての途次陽炎立つ奬忠壇附近の春色に見惚れ居るの絣の羽織を着たる一人の男が之を見て伊藤君アレ見玉へ君がレコの花子が彼處にと指さし示さるゝ伊藤と云ふ男は成程統監と同姓なる丈統監に似たやうな眼をアチラに向くれば間違ふ方なき花子なりしかば伊藤は友人の手前も憚からずツト驅け行き花子の肩をポントと叩きドウダ久しぶりだネー僕は逢ひたくてならないけれど此頃の如く家が嚴しくてといへば花子もニッと笑ひ貴君ホントにイヤダワ妾はドンナに貴君の事ばかり思ふて居るのに夫れに家が嚴しいとか何とか云つて他樓に登るとは貴君は實に殺生ダワ今日ね稻荷さんに詣つたのも貴君に逢はれるやうにと祈りしたのよと二人の噺は綿々として何時までも盡きざれば連れの三人も人に惚けのみ聞せるも好い面の皮だオイ伊藤大概止して歸ろぢやないか促せばイヽエ伊藤さんは妾の情夫です歸しません貴君方はサッサと歸りなされと捨て臺詞を跡に二人手を取り交し大桝屋に這入りたるが取殘されたる三人の連れこそ好い面の皮だとの投書を書くの如し

營業科目

土地家屋鑛山山林賣買貸借ノ仲介
土地家屋鑛山山林測量製圖應依頼
灌漑排水事業設計應依頼
土地整理竝丈量應依頼
鑛山未墾地出願代辨
土地家屋證明賣買手續代辨
外國旅券出願代辨
新聞廣告取次
電話賣買取次
韓國に關する圖書雜誌閲覽
韓國に關する非賣出版書閲覽
韓國に關する本社調査書類閲覽
商品依託持約代理店ノ仲介

▲弊社は誠實秘密且敏速に業務を營む
●宅地及韓人家屋の賣物あり
●商店向其他の貸家あり
●鑛山の賣物あり
●耕地未耕地の賣物あり
▲弊社は各方面に渉り各事項を調査す

本社 京城水標町二丁目八番戸假事務所

京城仲介社

支社

東京 東京麹町區富士見町	伊藤豊次郎
大阪 尼ケ崎字宮町	由比昌太郎
仁川 仁川新町一丁目	遠藤喜平
釜山 釜山入江町一丁目	加納佐一
木浦 木浦山手通三丁目	谷垣嘉市
鎭南浦 鎭南浦西二丁目	古田稲甫
開城 開城西部	今福又三郎
水原 水原南門内	川口直三郎
元山 元山居留地	菅鶴平
鏡城 鏡城北門内	菅平支店
平壤 平壤大和町	佐久間賢次郎
大邱 大邱東門外	稲本新作
龍山 龍山元町	吉岡一臣

新築建築材料品種々

ラバイド
金屬打出 モナーク瓦
アスハルト並に工事
リサイト
一名防火ペンキ
アスファルト
アスハルトフエルト
穴木材防腐劑
米國製 壁紙◎石綿瓦
建築用紙◎エナメル

本店	東京京橋區五郎兵衛町（特電本局九四三）
支店	大阪西區靱中通一丁目（特電西八九四）
同	横須賀市太瀧町（電話一一一）
同	大連市伊勢町十一號地
同	韓國京城大和町一丁目
出張所	米國紐育フロントン街九六

合資會社

丸原商會

諸衙官用御品調達
各學校用品調達

營業科目

紙類書籍
印刷附屬品
印刷インキ
防腐デシン
穀物食鹽
織物染料

委托販賣 并に

東京 合資會社アライアンス商會代理店
横濱 百七十六番ビューム、エンドライフ商會代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
東京 博文館發行書籍特約店
東京 金港堂發行書籍特約店
釜山 臺鹽合資會社食鹽特約店

藤田合名會社

本社 京城明治町二丁目 電話二三〇番
出張所 東京 京橋區南鍋町一丁目 電話新橋三九六二

西洋御料理 宴會

日本人倶樂部

京城南山町三丁目電話（一一三番）

極上 材木、貸金、石灰

座敷廻り諸材料特に注意取揃あり

右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候間多少に不拘御用命願上候

小森材木部

京城旭町一丁目
電話七四四番
本宅四〇五番

開業御披露

桃山の花の盛りとなれる其中にも殊に本國は京阪の本場の美人揃ひにて評判も高き腕そろひに御座います

和歌吉 和歌勇 和歌千代 和歌芳
和浦 和歌之助 和歌駒 和歌葉

龍山桃山遊廓

和歌の家支店

（電話一六三番）

工事請負廣告

一西小門外税關官舍敷地排水工事
一同 上板堺煉瓦堺其他工事

右一口として競爭入札に附す請負望の者は隆熙二年四月四日までに當部に就き入札人心得書契約書安工事仕様書及圖面熟覽の上來る四月六日午前十一時當部に出願入札すべし即時開札す
入札保證金は各自見積價格の百分の五以上
此契約は臨時税關工事部長坂出鳴海擔任す

隆熙二年三月二十一日

臨時税關工事部

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
三池粉炭

ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候
鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應し可申候
當社一手販賣炭左之通り
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黒、藤棚
本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦
芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物産合名會社

京城出張所（電話二十六番）
仁川出張所（電話六十三番）

齒科全般の治療

米國最新式義齒

米國齒科醫學博士 女醫 中村安子

京城本町六丁目（藪そば横町）

●大勉強廣告●

○うなぎ蒲燒○會席御料理
○うなどん○親子どんぶり

きく紋

本町座前大和湯向
電話九百五十四番

善隣商業學校 夜學專修科

生徒募集

●第一學年生五十名●出願期日四月十二日限
●志願者心得入用のものは本校に申出べし

京城明治町壹丁目

中折帽子、靴下各種
ブローチ及ピン
キヤラコ各種
小供洋服各種

○大割引販賣

長谷川町一の四五

和加奈商會

本店 東京市日本橋區兜町

内地支店及出張所 大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
韓國支店及出張所 仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、
及出張所 平壤、大邱、開城、城津、成興、馬山、鏡城
淸國出張所 安東縣

株式會社

第一銀行京城支店

電話番號	營業部	一一番
	當商用	同
	營業部	三三二番
	國庫部	六一一番
	用度係	六一二番
	分析所	六二二番

總支配人 市原盛宏
副支配人 三島太郎
國庫部長 三島太郎
副支配人 竹山純平
調査部長 竹山純平
副支配人 木村雄次
營業部長 木村雄次

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 八拾萬圓

京城南大門通（電話四二〇）

株式會社

十八銀行 京城支店

本店 長崎市築町

支店出張所 京城、仁川、木浦、群山、龍山、元山、釜山、羅州、

日本 大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢四厘）

長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金 三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山、仁川、平壤、鎭南浦、安東縣

株式會社

第五十八銀行京城支店

（電話五八番）

爲替取組先

東京	二十七ケ所
山陽	十七ケ所
南海道	七十三ケ所
北陸道	二十五ケ所
山陰道	二十三ケ所
西海道	二十八ケ所
東海道	十三ケ所
北海道	十三ケ所
韓國	三ケ所
臺灣	一九ケ所

内外書籍新聞雜誌

和洋雜貨日用品

文房具學校用品

大阪朝日新聞 一ケ月四十五錢
同 毎日新聞 一ケ月四十五錢

京城本町三丁目

平田商店

（電話百十五番）

統監府御用
各官衙御用
荷物荷造及運搬

伊藤組

營業部 本店 本町三丁目 階町

伊藤友松

（電話七百三十二番 四十一番）

廣告

一堅牢なる中古荷車安價放賣
右多數着荷仕り候に付多少共御用命の程願上候

東大門外南大門（千葉醫院前）

（源） 小宮山支店

取次電話一二九番

仁川驛上る

（源） 同 本店

電話七一六番

毎月廿日

名物 一錢引八錢
一 一頭八錢
一 一名一口饅頭

一錢に四つ

御菓子製造大勉強

京城本町六丁目

二八堂

本店 仁川海岸通（電話三二番）
支店 京城南山町（電話一〇七番）

金旅館

諸官衙御用 印刻師

京城明治町一丁目

齋藤亨太郎

和洋御料理

並に かきかまめし

外に 洋食 すし

一皿ニ付金十五錢

京城本町五丁目 本町商店前入

あづまや

日本郵船株式會社

滊船出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 郡司回漕店 電話三十番

京城南大門通 巴商會 電話三〇番

●釜山長崎門司神戸行 山東丸 四月十二日 後三時出帆
●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 第一オハヨ號 三月廿五日 後三時出帆
銅路丸 三月 日 後三時出帆
●大連、大沽行 高砂丸 四月九日 後一時出帆
山東丸 三月卅一日 後十時出帆
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 三月 日 後一時出帆
●鎭南浦行 第一オハヨ號 三月廿二日 後三時出帆
●釜山出帆、元山行 弘前丸 三月 日

御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄御送迎ニ付可申候 送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ最終便ノ事